

竹取

月を眺め暮らし
恋の香におびえ
静かなる月を眺め暮らし

水は流れ
時は流れ
風は流れ

花を眺め想い
人の気配におびえ
花をただ眺め想い

鈴は鳴り
笛は昇り
草はさざめき

呼び声は雫となり
竹林に霧が住み
目を閉じれば雫が落ち

静寂がたちこめている
彼女は月を見上げている

己が^{いのち}生命に怯えながら

(1985.3.18)